

短歌甲子園「楽しみたい」

大農太田から初出場

大仙市の大曲農業高校太田分校1年の女子生徒3人が、全国高校生短歌大会（通称・短歌甲子園）の予選審査を突破し、16～18日に盛岡市で行われる本大会に出場する。短歌甲子園は、盛岡出身の歌人石川啄木の顕彰と高校生に短歌に親しんでもらう目的で2006年から開催されており、太田分校からの出場は初。

出場するのは高橋奈々美さ
ん、山方萌佳さん、湯野澤心
紅さん。いずれも高校入学ま
で、本格的に短歌を詠んだ経
験はなかった。

国語担当の能美政通教諭が
1学期、授業で「短歌を作つ
て県歌人競技会の全県短歌大
会に応募してみよう」と1年
生13人に説明すると、多く
の生徒がスマートに短歌を
創作した。そこで今度は短歌
甲子園への応募を提案。「思
い出作りにわんこそばを食べ
に行こう」と呼びかけたところ、
能美教諭が顧問を務める
郷土芸能部の3人が1人1首
ずつ「十八時 また明日ねと
遠きかる 真っ赤に燃える夕

日が照らす」（高橋さん）な
どと詠んだ。

この3首を3人1チームで

応募する予選審査に送った結
果、39校50チームの中から、

全国大会に出場できる21校21
チームの一つに選ばれた。6月
月下旬に審査結果を伝えられ

た3人は、「だめだと思つてい
たから、信じられなかつた

（湯野澤さん）と言う。

県内からは太田分校のほ
か、2年連続3回目の出場と
なる秋田北高校も選ばれた。

大会は審査員による採点方
式で、団体戦の1次リーグと
決勝トーナメント、21チーム
の全員が参加する個人戦で争
う。このうち団体戦決勝トーナ

盛岡市で16～18日 1年生3人、大舞台へ



短歌甲子園に出場する（左から）高橋さん、山方さん、湯野澤さん

©秋田魁新報社

ナメントは即興での創作を求
められるため、夏休み中も何
度か学校に集まり、練習を重
ねてきた。「少ない言葉で思
いを伝えることが楽しい」「山
方さん」と創作の喜びをかみ

しめている。
にこやかに「全国大会を樂
しんたい」と口をそろえ
る3人。気負わず大舞台に臨
む。